

2026 年度 日本教科内容学会 奨励賞

受賞者 吉川秀一氏、石光政徳氏

授賞対象業績

第 13 回研究大会における研究発表

発表題目：音楽科と算数科の統合単位における子どもの音楽表現の発展過程にみる教科内容の関連

授賞理由

音楽における音階と数学における比の概念との間には密接な関係があることが知られており、この関係の理解を中心とした音楽科と算数・数学科の教科横断型授業がこれまでも提案・実践されている。本研究も両教科の統合を図るものであるが、単独の授業にとどまらず、音楽科と算数科を往還する統合単位を構成し、小学校において単位全体を通した授業実践を行っている点に特色がある。

この統合単位は、児童が音階と比の関係を理解し、その理解を基にそれぞれの音楽表現を発展させることをねらいとし、児童が好きな音高を選んで自ら竹筒を切って竹楽器を作り、班ごとにそれぞれが制作した竹楽器を持ち寄って音階を構成することを軸として学習が展開される。実践終了後には、逐語記録を基に分析を行い、音楽科と算数科の教科内容が子どもの音楽表現の発展過程にどのように関連したのかを明らかにしている。

本研究は、創出した統合単元の学校現場での実践という大がかりなものであり、音楽表現の発展に対する音楽科、算数科それぞれの寄与について緻密に検証していることが高く評価できる。さらに、2 教科の教員が協働している点、実体験に即した学習である点、両教科の教科内容の獲得も視野に入れている点など、教科等のより統合的な学習の在り方に関する重要な示唆を与えている。以上の理由により、吉川氏ならびに石光氏に日本教科内容学会奨励賞を贈呈するものである。

なお、当日の発表では、両氏が交互に登壇しそれぞれの担当部分について説明を行った。その発表内容および発表への実質的な貢献を総合的に判断し、両氏はいずれも実質的な筆頭発表者であり表彰に値すると認めた。